



## 我が母校は永遠なり

福島東高等学校同窓会長

佐戸川 政実



福島県立福島東高等学校同窓会長の佐戸川政実です。今年度も同窓会報をお届けできることを大変嬉しく思います。日頃より母校ならびに同窓会活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、今年は三年に一度の公開文化祭「東桜祭」が開催され、私も一般参加者として足を運びました。校舎に足を踏み入れた瞬間、懐かしさとともに、若々しい熱気に包まれた空気を肌で感じました。各クラス、委員会、部活動が趣向を凝らした展示や

発表を行い、来場者の目を楽しませてくれました。ダンス、合唱、演奏、美術作品、模擬店など、どれも生徒たちの創意工夫と情熱が感じられ、まさに「青春の輝き」がそこにありました。多くの保護者の皆様、地域の方々が来場され、母校が地域に根差した存在であることを改めて実感しました。

在校生の皆さんの活躍は、同窓会としても大きな喜びであり、誇りです。文武両道、運動部も文化部も、県や全国での活躍を新聞紙上で目にするたびに、我がことのように嬉しく感じています。

1年生の皆さんは、入学から半年が過ぎ、学校生活にもすっかり馴染んでいることでしょう。新しい友人との出会い、部

活動への参加、授業や行事を通じて、高校生活の楽しさを存分に味わっていることと思います。

2年生の皆さんは、学校活動の中心を担う存在として、後輩を導き、先輩を支える立場にあります。文化祭や体育祭、委員会活動など、様々な場面でリーダーシップを発揮し、学校全体を盛り上げてくれる姿は頼もしく、未来への希望を感じさせてくれます。

3年生の皆さんは、進路に向けて悩みや不安を抱える時期かもしれません。しかし、その悩みこそが人生を深める糧となります。自分自身と向き合い、選択し、努力する日々は、必ずや将来の礎となるでしょう。どうか自信を持って、一步一步前に進んでください。私たち同窓生も、皆さんの挑戦を心から応援しています。

保護者の皆様、教職員の皆様、今年はさらに気温の高い夏でした。生徒の健康管理は大変だったことと思います。彼らは口にし

過去の同窓会会報のバックナンバーは同窓会Webサイトで閲覧可能です。

下記QRコードを読み取るか、「福島東高校同窓会」で検索またはURLを直接入力してください。



ら浄財を募り、支援金を学校にお届けしました。

その後もLINEグループをつくり、折に触れSNS上で旧交を温めています。今年は有志でゴルフ同好会を立上げ、二回ゴルフコンペを行いました。和気藹々、在校時はクラスが違っていたても、お互い大人になり、ゴルフを通じて改めて親交を深めることができました。来年四月にも行いますので、一期生でゴルフをされる方のご連絡をお待ちしております。

全国各地で活躍されている同窓生の皆様には、ぜひ母校への温かい励ましの言葉や支援を届けていただければ幸いです。少子高齢化が進む現代において、学校の存続が危ぶまれる地域も少なくありません。だからこそ、OB・OGの皆様の母校への思いが、在校生への力強いエールとなり、学校の未来を支える大きな力となります。

福島東高校は、これまで多く



一桜会 ゴルフコンペ

の人材を育て、地域社会に貢献してきました。その歴史と伝統は、私たち一人ひとりの心の中に生き続けています。そして、これからも在校生、卒業生、教職員、地域の皆様が一体となって、母校の歩みを支えていくことでしよう。

部」ができることが、現同窓会長として私のささやかな願いでもあります。

我が母校は永遠なり

福島東高等学校の発展と、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。

## 令和6年度 歳入歳出決算書

歳入金額 4,874,172円  
決算金額 3,526,526円  
差引残額 1,347,646円

## 1. 歳 入

▲は増加 単位：円

項 目	6年度予算額	6年度歳入額	比較増減額	備 考
入 会 金	1,392,000	1,392,000		¥6,000×233人
会 会 費	1,392,000	1,392,000	0	¥6,000×233人
前年度繰越金	1,351,688	1,351,688	0	
雑 収 入	112	1,709	▲1,597	利息(¥1,709)
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	850,000	736,775	113,225	クレジット(¥97,126)・コンビニ(¥388,840)郵便(¥128,808)1期生(¥120,000)
合 計	4,985,800	4,874,172	111,628	

## 2. 歳 出

項目(科目)	6年度予算額	6年度決算額	比較増減額	備 考
総 務 費	147,000	67,300	79,700	
会 議 費	100,000	27,000	73,000	役員会旅費、会議室借用費
旅 費	10,000	4,000	6,000	全国大会激励金贈呈式、同窓会入会式
需 用 費	1,000	300		
事務局費	36,000	36,000	0	
総 会 費	0	0	0	
運 営 費	0	0	0	
事 業 費	420,000	382,064	37,936	
卒業記念品費	190,000	187,264	2,736	卒業証書ホルダー
広 告 費	150,000	124,840	25,160	野球、サッカー、バス、駅伝等の応援広告
サイト運営費	80,000	69,960	10,040	
会 報 費	680,900	628,430	52,470	
印 刷 費	600,000	550,550	49,450	会報印刷費
名簿管理費	80,900	77,880	3,020	平成24年度より外部業者へ委託
通 信 費	1,520,000	1,406,045	113,955	
会報郵送費	1,500,000	1,404,910	95,090	会報発送費
通 信 費	20,000	1,135	18,865	連絡用はがき通信費
在校生支援費	1,800,000	618,687	1,181,313	
在 校 生 支援事業	1,000,000	618,687	381,313	全国大会激励金、定期演奏会等補助、部活動・委員会支援
公開文化祭後援費	0	0	0	
特別会計事業	800,000	0	800,000	
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予 備 費	17,900	24,000	▲6,100	会費等返金
合 計	4,985,800	3,526,526	1,459,274	

\* 項目科目間の流用を認める。

## 令和7年度 歳入歳出予算書

歳入金額 4,956,000円  
歳出金額 4,956,000円  
差引残額 0円

## 1. 歳 入

▲は減少 単位：円

項 目	7年度予算額	6年度決算額	比較増減額	備 考
入 会 金	1,404,000	1,392,000	12,000	¥6,000×234人
会 会 費	1,404,000	1,392,000	12,000	¥6,000×234人
前年度繰越金	1,347,646	1,351,688	▲4,042	
雑 収 入	354	1,709	▲1,355	預金利息
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	800,000	736,775	63,225	東高応援基金より
合 計	4,956,000	4,874,172	81,828	

## 2. 歳 出

項目(科目)	7年度予算額	6年度決算額	比較増減額	備 考
総 務 費	87,000	67,300	19,700	
会 議 費	40,000	27,000	13,000	役員会旅費
旅 費	10,000	4,000	6,000	入学式・卒業式等の役員旅費
需 用 費	1,000	300	700	
事務局費	36,000	36,000	0	
総 会 費	50,000	0	50,000	
運 営 費	50,000	0	50,000	
事 業 費	440,000	382,064	57,936	
卒業記念品費	190,000	187,264	2,736	卒業証書ホルダー
広 告 費	150,000	124,840	25,160	野球、サッカー、駅伝、バス等の応援広告
サイト運営費	100,000	69,960	30,040	
会 報 費	678,000	628,430	49,570	
印 刷 費	600,000	550,550	49,450	会報印刷費
名簿管理費	78,000	77,880	120	平成24年度より外部業者へ委託
通 信 費	1,505,000	1,406,045	98,955	
会報郵送費	1,500,000	1,404,910	95,090	会報発送費
通 信 費	5,000	1,135	3,865	返信用はがき後納、切手等
在校生支援費	1,780,000	618,687	1,161,313	
在 校 生 支援事業	800,000	618,687	181,313	上限年額100万円の支援
公開文化祭後援費	180,000	0	180,000	
特別会計事業	800,000	0	800,000	上限年額100万円の支援
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予 備 費	16,000	24,000	▲8,000	会費等返金
合 計	4,956,000	3,526,526	1,429,474	

\* 項目科目間の流用を認める。

# 「東高100の改善」

福島東高等学校長 小林 寿宣



同窓会会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に対してご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年の同窓会会報では、「東高は今、『変革の時』を迎えています。」と題し、その背景や「学力向上ビジョン」における3つの柱について紹介させていただきました。今回は、現在、取り組んでいる教育活動について、その理念や具体的な取組について紹介させていただきたいと思っています。

まず、本校が目指す学校像を一言で表す言葉として

【Interactive High School

（対話型高等学校）】

と決めました。これは、生徒と教員との対話をはじめ、生徒間、教員間、保護者と教員間などの対話が、本校の変革をより良い形で実現させるための根幹を成

すと考えたからです。そして、あえてこのような言葉を掲げたのは、福島東高等学校を、今後地域との進学校として発展させ、県内外に誇れる学校にするという決意を表したいと考えたからです。さらに、「生徒面談」、「探究」、「鍛求（たんきゅう）」の3本柱を定め、それぞれ具体的な取組を行うこととしました。

まず、紹介しするのは「生徒面談」です。ご存知のように、本校は今年度の1年生から、一日の時間割を六校時までとしており、これに対して、一時間、一時間の授業に集中して取り組むこと、そして、授業以外の時間における学習の自立、つまり「自学」を生徒一人一人に確立させることで、学力向上を目指しています。具体的な取組は、これまでの七校時目の時間を活用する「生徒との面談」と「自己探究の時間」の取組です。「生徒との面談」は、一年間を通じて生徒と教員の対話の場を設定し、生徒理解を深めることで、学習指導、進路指導、生徒のつまりきや悩みの解消など、生徒

一人一人に最適化したアドバイスをしたいこうとするものです。また、「自己探究の時間」は面談と同時に実施しているもので、七校時目の時間帯に、授業の予習・復習、授業で出された課題への取組、読書などの時間として活用しています。生徒は、教室の他、廊下に設置された学習机、図書館など、学習場所を選ぶことができます。なお、この七校時目の時間は、放課後にあたりますが、殆どの生徒は校内で学習に取り組んでいます。これらの取組は、まだ一年目ですので、「授業を中心に学びのサイクルを回す」ことや「自学」の定着を目指し、今後、検証し、改善を加えながら取り組んでまいります。

次に、紹介しするのは「探究」です。探究活動は、「総合的な探究の時間」として、全学年において週一時間を組み込んでおり、必要に応じてLHRと併せて二時間連続の活動ができるよう配慮して実施しています。今年度は、これまで何度も本校で講演をいただいていた本校との縁も深い、原発事故の国会事故調査委員も務めた石橋哲氏をアドバイザーに招へいし、探究活動のレベルアップを目指して取り組んでおります。また、県教育委

員会の指定を受け、本校の探究活動と関連付けて行っている「教育コース」については、福島市との連携や県北教育事務所の協力をいただき、活動内容も大きく飛躍しました。これまで行ってきた、小・中学校の教員研修会への参加に加え、生徒が一日小・中学校に訪問し、できる範囲のお手伝いをしながら、児童と交流したり、教員の働く姿を観察したり、学校という働く場所を体験する活動を行いました。生徒たちは積極的に生徒・児童と交流し、充実した学びができていましたし、訪問した小・中学校からも感謝の言葉をいただくなど、高く評価していただいています。

最後に紹介しするのは「鍛求（たんきゅう）」です。「鍛求」は造語ですので、辞書には無い言葉ですが、本校の教育活動の「鍛える」部分を表すとともに、「自ら鍛えて、たくましく成長してほしい。」という願いを込めた言葉です。今、教育界では、意欲、たくましさ、粘り強さなど、数字で表しにくい能力である「非認知能力」が、重要視されています。ご存知のように、本校は部活動に力を入れており、一定の集団で培われる経験は、協調性や忍耐力などを鍛える場に

なっています。また、生徒会活動も近年盛んになっている他、スポーツ大会や文化祭など体験的に学ぶ場も豊富に準備しているため、生徒たちは本校で生活をしているだけで自然に非認知能力を鍛えられる、そのような環境が本校には整っております。題名に「東高100の改善」としましたとおり、本校は新しい時代の進学校を目指し、様々な改善や取組を行っています。「育てよう」今日は明日の歴史、新しい伝統」とは、本校の校歌の一節です。東高では、まさに今、新しい伝統がつくられようとしています。本校の先生方とは、県内外から視察に来るような先進的な東高を創造していきましようと話しています。



結びになりますが、現在、取り組んでいる「私たちの挑戦」の一部をご紹介させていただきました。同窓会の皆様方のご理解をいただきますとともに、一層の応援を賜れば幸いです。



## 進路

進路指導主事

遠藤 順一

令和六年度の国公立大学合格者は七十四名でした。主な大学への合格者数は、福島大学二十名、山形大学九名、宇都宮大学七名、宮城教育大学三名、福島県立医科大学十名、宮城大学三名、会津大学三名、高崎経済大学三名でした。また、国公立大学中後期試験では、最後まで学習を継続した成果が八名合格という結果につながりました。私立大学に関しては、二百五十四名(延べ人数)が合格しました。

昨年同様、国公立大学・私立大学の推薦入試(学校推薦型・総合型選抜)に多くの生徒が挑戦しました。

「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」に移行して五年が経過しました。また、二十七年三月に告示された新学習指導要領は、昨年の卒業生(二十二年一度の高校入学生)から導入され、プログラミングや情報セキュリティの基礎などを学ぶ「情報Ⅰ」が全学年で必修科目となつて4年目となりました。昭和から平成、令和へと時代は移り、教育に求められる

(表) 大学別合格者数(令和6・5・4年度入試)

	大 学 名	令和6年度生	令和5年度生	令和4年度生
国 公 立 大 学	北見工業大	0	0	1
	北海道教育大(函館)	0	0	2
	弘前大	1	1	1
	岩手大	1	4	0
	東北大	0	1	0
	宮城教育大	3	6	3
	秋田大	2	3	2
	山形大	9	13	9
	福島大	20	24	28
	茨城大	2	2	3
	筑波大	0	1	1
	宇都宮大	7	4	2
	埼玉大	0	1	1
	新潟大	2	10	4
	山梨大	1	0	0
	信州大	0	1	0
	島根大	0	1	0
	釧路公立大	0	0	1
	青森公立大	0	0	1
	岩手県立大	0	3	1
	宮城大	3	2	1
	秋田県立大	0	1	1
	山保健医療大	1	1	0
	米沢栄養大	1	0	0
	会津大	3	1	1
	福島県立医大	10	7	12
	前橋工科大	0	0	1
	新潟県立大	2	1	0
	高崎経済大	3	4	1
	群馬県女子大	0	1	0
	長岡造形大	0	0	1
	都留文科大	2	4	1
	長野大	0	0	4
	福井県立大	1	0	0
	静岡文芸大	0	1	0
	鹿屋体育大	0	0	1
	計	74	98	84

	大 学 名	令和6年度生	令和5年度生	令和4年度生
私 立 大 学	仙台大	3	1	2
	東北学院大	49	62	46
	東北福祉大	10	26	33
	東北医薬科大	1	5	1
	宮城学院女子大	4	5	7
	東北芸術工科大	0	1	2
	国際医療福祉大	8	5	8
	白鷗大	5	16	12
	獨協大	6	5	2
	文教大	2	3	1
	女子栄養大	0	1	0
	神田外語大	5	1	3
	淑徳大	0	3	1
	青山学院大	0	2	1
	垂細垂大	1	1	2
	北里大	2	1	1
	国士館大	1	0	2
	駒澤大	5	0	1
	専修大	4	3	0
	大東文化大	8	7	1
	玉川大	1	1	1
	中央大	2	1	1
	帝京大	2	2	3
	東海大	5	19	14
	東京工科大	0	1	0
	東京農業大	1	3	2
	東洋大	7	6	8
	日本大	19	26	16
	早稲田大	1	1	1
	法政大	1	1	1
	明治大	3	2	2
	明治学院大	1	1	0
	神奈川大	8	1	4
	新潟医療福祉大	3	1	8
	同志社大	2	2	2
	その他	84	91	82
	計	254	307	271

※令和4年度卒業より6クラス

ものも大きく変化しています。教育・入試制度の変化、進路選択の広がりや働くことに対する価値観の多様化に伴うさまざまな課題が山積する中、東高も変化を求められています。

今年度、進路指導部では6月に「進路に関する何でも相談週間」という保護者対象の企画を実施しました。進路部員で20名の保護者と面談をしました。

「推薦を中心に相談したい」という保護者が7人、「入試制度、奨学金、学力など、大学入試全般について聞きたい」という保護者が11人、その他が2人でした。学年別では、3年生が10人、2年生が6人、1年生が4人でした。保護者からは「進路に対する不安を聞いてもらえてよかった」「具体的な進路情報を得られた」「子供の学力で目標とする大学をイメージすることができた」「夏休みの三者面談の前に進路について考えなければならぬことが明確になった」等の感想をいただきました。希望者多数につき、残念ながら対応できなかった保護者が十数名に及び、予想以上に保護者が進路について関心を持っていることがわかりました。そして現在、進路指導部は環境整備にも力を入れています。進路資料室隣に進

路資料室Ⅱを増設しました。面

談用スペース、進路情報検索用パソコン、最新の赤本を置く本棚を設置しました。さらに、進路資料室前廊下と2階中央廊下に学習机、椅子(24脚)を設置して、生徒たちが朝、昼、放課後の時間に利用できるようになりました。進路資料室を開放することで、生徒と進路部員とで面談を行う機会が増え、進路とクラス担任間の進路情報共有が円滑に図られるようになりました。進路資料室は保護者の皆さんにも自由にご利用いただけます。訪れる保護者と面談をする機会も生まれました。このようにして、以前より一層丁寧な進路指導ができるようになりました。

今後も東高生一人ひとりの力をより伸ばすために、これからの東高はどうあるべきかを考え、さまざまなことに躊躇なくチャレンジしていきたいと思っています。そして、東高生にはこれからの社会を生き抜いていくタフな人材を目指してほしいと思います。

## 43期総括

43期学年主任 梅宮 康弘

四十三期生の三年間を振り返っていきます。

### 〈アフターコロナ〉

人々の生活に様々な制限がかかっていたコロナ禍も、今では昔話になってしまいました。四十三期はコロナ禍の終焉に向かっていた学年でした。入学後の昼食は黙食が徹底されていた。マスク着用・換気励行はもちろんのことです。朝の検温の数値を毎日カードに記載することも求められていました。対話型の授業は鳴りを潜め、発声や音楽器を扱う活動は感染防止を施しながらどのように活動できるのかに苦慮していました。

の東高はどうあるべきかを考え、さまざまなことに躊躇なくチャレンジしていきたいと思っています。そして、東高生にはこれからの社会を生き抜いていくタフな人材を目指してほしいと思います。

シートの提出や検温をお願いしていました。まさに息苦しい一年間を過ごしております。

(そのような中でも生徒たちは明るく元気でした。部活動の帰りやスポーツ大会の後会食し、集団で罹患して呆れられるということもありました。)

二年次には、様々な制限が徐々に緩和されていきました。が、感染拡大防止は継続されていきました。まだ全員がマスクを着用しており、着用していない顔写真撮影で、初めて素顔を見たようなものでした。

三年の五月に5類に移行されました。教員側の手続きは、劇的に緩和されましたが、まだ不安もあり、恐る恐る緩めていくようなところがありました。この原稿を書いている時点では、常時マスクを着用している生徒はほとんどいなくなりました。が、四十三期の三年生は、マスク着用の期間が長かったせい(さらに受験に向かう時期でもあったため)卒業までマスク着用率が高いままでした。

### 〈変革期〉

教育課程の変更や共通テストの改変等様々な事が一気に変わったことも、四十三期の大きな特徴です。

### 【新課程】

様々な教科・科目が、科目名・内容共に大きく変わった1年目でした。OB・OGにはわからない科目を記載してみます。国語は1年次履修「現代の国語」と「言語文化」。数学は3年次履修「数学C」。英語は「論理・表現」(聞いただけでは何の科目かわからないですね)。地歴は、A科目がなくなり「地理総合」と「歴史総合」が新設。公民は「現代社会」から「公共」への変更。そして何と言っても「情報」の新設。四十三期生とその先輩の授業に関わる会話のギャップが聞いていて微笑みしかつたものです。

### 【三観点による評価】

大きく変わったのが評価です。この新しい評価法には我々教員も苦労させられました。少し乱暴にいうと、一つの科目について○「知識・技能」○「思考・判断・表現」○「主体的に学習に取り組む態度」の三観点それぞれにABCの評価をつけ、その総和で成績を出すというものです。定期考査でも「知識・技能」の問題で△△点、「思考・判断・表現」の問題で▲▲点とつけて、ABCに変換し、年度末その総和とその他の評価を合わせて総合的に判定しま

す。(わかりにくいですよね)

「主体的に学習に取り組む態度」も生徒一人一人の学習への取り組みに対してABC評価をします。OBの方々は、定期考査で30点未満だと『赤点』という認識をされていると思いますが、現行評価では30点未満でも、赤点ではない場合があるのです。(本校では「CCB」と「CC」が赤点です)

1年次の1学期、初めて現行評価システムにて成績を通知した際、変換ミス等で、通知表の記載に誤りが見つかり、学年団と教務・管理職ですべてチェックし直し、通知した表記に誤りの見つかった生徒と保護者にお詫びの連絡を入れたことがほろ苦い思い出として残っています。

#### 【共通テストの変更】

共通テストの大きな変容の初年度であったのも四十三期生の特徴です。主な変更点では、前述の「情報」の受験(大学によって点数化するかの判断は分かった)。その他にも、国語(「実用文」の出題と10分増)、数学(「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学B」に「数学C」が加わり10分増)、英語(「リーディング」と科目名が変更)地歴(科目選択の変更)込み入っていますので詳細は控

えます)等がありました。大学入試センターから事前に提示された試行問題はあるものの、どのような問題になるのかわからない不安を抱えての共通テストチャレンジでした。四十三期生には、ピンチをチャンスに変えるべく、共通テストに向けた取り組みを行っていましたが、結果は可もなく不可もなく、一人一人の浮き沈みはあったものの、全体でもう少し得点したかったという結果に終わりました。

#### 【一人一台端末】

文科省からの指導による、一人一台端末が導入されたことも四十三期生からでした。助成はあるものの、保護者への負担増もあり、せっかく購入した端末を利用した授業ができないのか模索した三年間でした。豆テストで利用したり、入力して提出したり、検索したりという活用が多かったのですが、生徒の端末の充電が不十分であったり、ソフトが開けなかったり、生徒が送信したつもりで送信されていなかったりで、三年たってもまだまだ利用法には改良が必要でした。ただし、中には学習アプリを上手に活用するなど、スマホに頼らない活用ができていた生徒もいました。

#### 〈学校生活と進路実現〉

前述(アフターコロナ)ではコロナ禍時期の困難さを記しましたが、そこは東高生！いかなる状況でも逞しく学校生活をエンジョイしていました。昨今のスマホ利用時間の増加傾向もそのままあてはまり、部活動命でスマホを利用して仲間と楽しく過ごし、勉強は少々という傾向はどの代でも共通のものなのでしょう。

公開文化祭は1年次開催でした。コロナ禍により入場は午前・午後の完全交代、生徒一人につき2枚の入場チケットを配布し、チケットを持った方しか入場できないというシステムでした。中学校を卒業して5か月の生徒たちですから、クオリティはさておき、高校入学後最初の大きなイベントを、十分楽しめました。そして、東高生の最大の楽しみと言えば、スポーツ大会！熱中症予防のため、夏の二回開催から、秋冬の二回開催に変更し、三年次は1回のみとなりましたが、コロナ禍であろうとなかろうと、雄たけびを上げている姿は、学校外の方にはとても見せられるものではありませんでした。(応援に制限はかけていたのですが、白熱してくるとそれどころではない

ですよええ)毎回、完全燃焼でした。

進路実現に向けたものとして、四十三期では、試みとして課題を多く与えることをせず、考査前の学習会も実施せず、なるべく生徒が自主的に取り組んでもらおうとしていました。前述の三観点による評価や共通テストの変更等、前例がない状態に対応するには、教えられたことをこなすのではなく、自ら考えて実践していくこそ実力が身につくと考えたからです。ですが、切羽詰まらないう重い腰を上げないことには変わりありませんでした。スイッチが入ってからの四十三期生の姿勢は、過去の先輩方に優るとも劣らないものでした。困難を力でねじ伏せようという者が多数見受けられました。それが、自分が受けたい受験先を変えないという強い意志となり、少々の困難をものともせずチャレンジした結果、国公立前期で返り討ちにあったという結果となって残りました。ですが、四十三期の担任は、そのチャレンジを良しとしていたので「惜しかった」とは思っていない、がっかりはしていません。次のステージでこの経験を充分活かしてほしいものです。

#### 〈担任団〉

四十三期は、主任が梅宮。副主任が白井健郎。真鍋久美子・郡司仁美・和田真衣・三瓶史絵の女性陣による学年でした。副担任は、1年次朝倉昭博・長井杏美(産休後は二瓶晃二)、2年次は阿部善重・渡部純、3年次は渡部純・佐藤直子の各先生方でした。笑いが絶えず、様々な事をオープンにし、全員で四十三期の生徒たちに向き合っていました。同窓会報ではありますが、紙面を借りて各先生方に感謝の意を表します。

以上が、四十三期の総括です。四十三期生も同窓生になりました。福島東高校の益々の発展を祈念し、結びといたします。





# 東北・全国大会出場報告

## 伝統の継承

テニス部顧問 梅宮 康弘

昨年に引き続き、全国大会出場報告をさせて頂く喜びを噛み締めております。また、同窓会様には過分なご支援を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

まず、前年度末、大正製薬リポビタン第47回全国選抜高校テニス大会（団体戦3/21〜25博多の森テニス競技場、個人戦3/22〜26春日公園テニスコート）に出場してきました。団体戦では、前年度ベスト4の強豪麗澤瑞浪高校（岐阜）と対戦しました。善戦しましたが、0―5での敗退。全国の強豪の力を感じました。個人戦は本校No.1登録の加藤柊羽が出場し、共愛学園（群馬）に2―8で敗退しました。技量に差はないのですが、試合の進め方やショットの選択等で少し劣っていました。本校生が全国で勝つために必要な部分と感じました。

そして団体戦で2年連続3回目の出場となった今年の全国高校総合体育大会は、広島県福山市竹ノ端運動公園庭球場・尾道

市こぞがなくんスポーツパークびんごを会場に、7月29日〜31日団体の部、8月1日〜4日個人の部が開催されました。個人戦シングルス（菊地駿太）は、昭和61年国分君、平成25年菅野君、同29年渡辺祐希君、令和6年の佐藤琉成君に続き本校5人目の出場。個人戦ダブルス（加藤柊羽・太田泉）は令和6年の佐藤琉成・市川倅大ペアに続き、本校生として2ペア目の出場となります。

団体1回戦の相手は北海道代表の海星学院高校。全国大会でも活躍している3年生2人のいる強敵です。2面同時展開で始まったダブルスとシングルス1の試合。ダブルスは、序盤お互いに堅さが見られましたが、福島県大会ダブルスを制した加藤柊羽（3年）太田泉（3年）ペアが、相手の強打を封じて徐々に自分たちの有利な展開に持ち込み、相手のミスを誘発して見事8―3で勝利。昨年に引き続きインターハイでの団体戦における本校の勝利をもぎ取りました。シングルス1の菊地駿太（1年）は、相手の強打を速いテンポで返球し、徐々に相手を押

し込むスタイルのテニスが持ち味ですが、全国でも上位に進む相手No.1の威力・精度とも高いストロークに対応しきれず1―8で敗退。まだ1年生で、高校の全国大会初出場ですから、今後につなげることができる敗退でした。シングルス2はこれも1年生の人見竜聖。バックハンドストロークが武器でクレバーなテニスで信条で、強敵相手にリードされては追いつく粘りのテニスをしていましたが、終盤、人見のテニスの特徴を捉えた相手選手が自分の良さを少しずつ発揮し4―8で敗退。悔しさから涙を流した人見でしたが、菊地同様きつと次年度満面の笑みを見せてくれるものと信じています。敗退はしたもの、全国



大会でも、十分戦えることを見せてくれた試合でした。

個人戦シングルス1回戦は、全国大会常連校の四日市工業高校の1年生選手。強者がひしめく中1年生で全国大会に出場することは並大抵ではないはずですが、やはりショットの威力・精度ともに高く、菊地もポイントはそのディフェンス力の高さもあり、確実に崩すまでは至らず、善戦及ばず1―6での敗退となりました。前述の通り良い経験を今後につなげてほしいと思います。個人戦ダブルス1回戦は、これも全国大会常連の鹿児島県鳳凰高校の3年生ペア。団体戦では勝利をもぎ取りましたが、個人戦に出場してくる選手はやはりパワー・テクニクとも高いレベルにあり、相手選手の威力十分のショットにアジャストできないままゲームが進んでいきました。何とか打開しようとするショットも、相手の威力に押されているため、少しずつずれのミスが続き、悔しい0―6での敗退でした。加藤・太田ともに高校生最後の大会で、強い思いで臨んだ試合でしたが、この経験を糧として、次のステージに進んでほしいも



のです。

令和7年には、2度の全国大会を経験しましたが、全国で勝つためには全国大会レベルのことを日常的に実践していかねばならないと感じさせられました。

終わりに、第48回全国選抜高校テニス大会東北地区予選会の報告をします。怪我で不参加を余儀なくされた主力と大会直前の体調不良による欠場者が出て、9名登録ですが7名で戦い（2複3単で7人必要）、フィードインコンソレーション2回戦で盛岡第四高校に2―3で敗れ、2年連続全国大会出場は断たれました。盛岡第四が全国選抜出場内定を勝ち取りましたので、もう少し何とかできなかったかという悔いは残りますが、出場した選手たちは全力で全国に向けて戦ってくれまし

た。なお、福島県大会個人戦で優勝した八島柊人（1年）が、第48回全国選抜高校テニス大会の個人戦に出場します。

次年度も同窓会の皆さまに良い報告ができるよう、全国レベルに自分を置くことができるよう精進し、新しい伝統を継承していつてほしいと思います。

## 七転び八起き

陸上部顧問 馬場 大

今年度、陸上競技部の上位大会には、6月東北インターハイ（青森県青森市）に3年生・佐藤華音（女子400m H決勝7位）2年生・齋藤周真（男子110m H準決勝進出）1年生・伊藤大葵（男子800m準決勝進出）女子1600mリレー（2年生・大宮怜禾 3年生・三品結・山田美桜・佐藤華音）、8月東北総合スポーツ大会（宮城県利府町）に3年生・山田美桜（女子1500m）、U18日本選手権（三重県伊勢市）に2年生・齋藤周真（男子110m H）が出場しました。各大会において選手はベストを尽くしましたが、残念ながら広島インターハイ、滋賀国民スポーツ大会、そして昨年出場を果たした東北高校駅伝競走大会には出場することは

できませんでした。

6月のインターハイ女子マイリリレーの様子を主に報告しようと思います。各選手は好調を維持したまま現地青森県入りし、その流れで予選も余裕を持って通過する予定でした。予選レースで先頭集団や後方を走っていたアンカー佐藤が残りの80m付近で転倒。なんとかゴールまで走ってくれましたが、予選通過は絶望的。ゴール後はバトンを持ったまま涙が止まらない様子。リレーメンバーの動揺は容易に想像ができましたので、残りの組のレースも見ずに私はスタンドから控えてテン



6月 東北高等学校陸上競技選手権大会（青森県青森市）

トに戻りました。ただ、けががひどくなければいいと思うばかりでしたが、幸いにも佐藤は軽症で、翌日の個人種目（400m H）も出場可能と判断できました。他の選手たちも何とか次のレースに向かおうと準備をしている姿が見え、その甲斐もあり、タイム順で準決勝に進むことになりました。彼女たちは短時間で感情が激しく乱高下しながらも、その時にとるべき最善の行動を必死になって考えたのではないかと思います。普段の生活や練習への取り組み姿勢がまさに試されるレースでした。単に技術を教えるのではなく、自ら考えて行動する力がどれほど大切なのか、身にしてみても考えさせられました。とはいえ、その後佐藤が出場した女子400m Hは予定どおり決勝へ進みましたが、広島インターハイへあとわずかに迫る7位という結果でした。やはり一にも二にも、勝負に徹する心と体を十分に準備させることは、指導者タスクの最優先事項だということとをあらためて知ることができ、何より選手同様悔しい気持ちになりました。ベストを尽くし、インターハイへの切符を手にする喜びを、やはり選手に体験さ



10月 U18陸上競技大会（三重県伊勢市）

せたいという気持ちはどうやっても消えることはないのだろうと今更ながらに感じています。勝利至上主義については様々な意見が出されていますが、私は勝利という結果を意識せずに日常の指導はできないと考えています。勝つために必要なことの多くがその中に含まれ、例えば社会で必要な常識や規範意識を高める指導、感性や価値観を育てる情操教育も勝利を手にするために大切な要素なのだと私は思います。一見、直接試合に必要な、関係ないと思うことも、廻り廻って結局は選手の土壇場で必要な力となってくるのではないのでしょうか。

今年度も貴重な経験をさせて



女子リレーメンバー

いただき、次年度への大きなエネルギーとなっておりです。貴会からの多大なるご支援とご協力に心より感謝申し上げ、活動のご報告と御礼のご挨拶といたします。





# 令和7年度全国高等学校総合文化祭書道部門(かがわ大会)

## 出場報告並びに今年度の活動成果

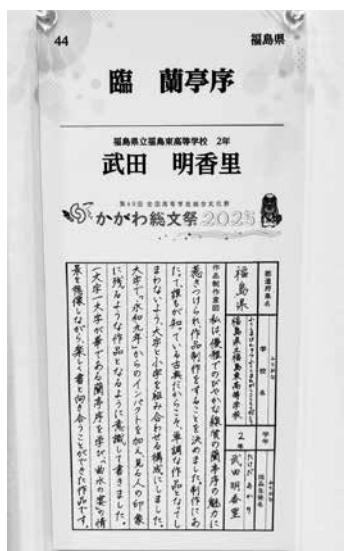
書道部顧問 郡司 仁美

令和7年7月28日～29日、岐阜県で開催された全国高等学校総合文化祭の書道部門に、2年生の武田明香里が福島県代表として出場してまいりました。武田は中国東晋時代の書家王羲之の行書の古典『蘭亭序』に魅了され、毎日熱心に探究してきました。横二尺(60cm)×縦八

尺(240cm)の紙面に書いた

素直で流麗な線質の書は、昨年度の福島県高等学校総合文化祭書道展で準大賞を受賞し、全国総文の県代表に選出されました。全国総文の展覧会会場は香

川県坂出市立体育館でした。会場には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の漢字作品、また仮名作品等、300点の作品が陳列されており、紙や墨までこだわった表現力の豊かな作品で溢れていました。全国レベルの作品の質の高さは勿論のこと、作品制作意図カードからは各自



作品意図カード

の思いが見て取れ、感銘を受けました。交流会では各県代表の生徒たちと親睦を深め、情報交換をす



令和7年度全国高等学校総合文化祭書道部門(かがわ大会) 2年 武田明香里『臨 蘭亭序』



合評会の様子

ることができました。また、作品の合評もあり、自分の考えを言語化し相手に分かりやすく伝える場面もありました。最後の講評会では、講師の先生から「行書の特徴を理解し構成と配字を工夫し気脈と余白に配慮した素晴らしい作品である」とのお褒めの言葉をいただくことができました。

その他、今年度の活動成果として、第44回福島県高等学校総合文化祭書道展で2年の武田明香里が大賞を受賞し、令



第44回福島県高等学校総合文化祭書道展 大賞 2年 武田明香里『臨伊都内親王願文』



第44回福島県高等学校総合文化祭書道展 奨励賞 2年 佐藤穂音『臨孝経』

和8年度の全国総文秋田大会の出場権を得ました。また同大会で、2年の佐藤穂音の作品が奨励賞に選ばれ、高等学校文化連盟全国書道専門部第50回記念書道展への出品参加資格を得ました。併せて、3年の佐藤歌音は3年生特別賞に輝きました。第70回福島県たなばた展では、2年の齋藤ゆうあが大賞を受賞しました。今年度は特に個々の作品の更なるレベルアップが見られ、第49回福島県書道連盟展でも、3年の佐藤歌音が大賞を受賞し、最優秀団体として福島県知事賞を頂くことができました。



第49回福島県書道連盟展 大賞 3年 佐藤歌音『臨魏靈藏造像記』

現在書道部は6名で活動しています。今後も書の本質や魅力を考

# 令和七年度 部活動報告

紙面の都合上、地区大会優勝、県大会以上の結果を掲載しております。地区大会も含めた全結果は福島東高校のホームページに掲載いたします。

## ●運動部

### 野球部

▼第107回全国高等学校野球選手権記念福島大会（7月12日15日）

1 回戦 対小高産業技術

4-2

2 回戦 対日大東北

3-4

▼第77回秋季東北地区高等学校野球福島県大会（9月13日）

1 回戦 対相馬連合

3-4

### サッカー部

▼令和7年度福島県高等学校体育大会

2 回戦 相馬

2-0

準々決勝 聖光学院

1-2

▼第104回全国高校サッカー選手権大会

3 回戦 日大東北

3-0

4 回戦 白河実業

1-0

準々決勝 聖光学院

2-0

準決勝 学法石川

0-1

▼U-18サッカーリーグ2025 福島 1部

第1節〜18節

対福島ユナイテッド 第1節

1-4×、第10節 2-6×

対聖光学院 第2節 0-1

×、第11節 2-1○

対東日大昌平 第3節 2-

1○、第12節 2-4×

対帝京安積 第4節 2-2

△、第13節 0-4×

対いわきFC 第5節 1-

0○、第14節 1-1△

対尚志セカンド 第6節 1-

5×、第15節 1-1△

対福島成蹊 第7節 0-0

△、第16節 2-0○

対郡山 第8節 0-4×

第17節 0-2×

対ふたば未来学園 第9節

0-0△、第18節 0-0△

4勝8敗6分 第8位

年間個人得点ランキング10位

八巻憂羽 8得点

個人賞（フルタイム出場）

齋藤悠葵

### 卓球部

▼福島県高等学校体育大会県大会

学校対抗 女子

1 回戦 3-1 原町

2 回戦 0-3 安積黎明

女子シングルス

高橋…2回戦敗退

植野…2回戦敗退

飯田…1回戦敗退

女子ダブルス

植野・高橋…1回戦敗退

▼福島県総合体育大会卓球競技県大会

男子シングルス

大橋郁…2回戦敗退

木村…1回戦敗退

女子シングルス

菅野愛・菅野碧…

1回戦敗退

▼令和7年度全日本卓球選手権大会福島県予選

男子ジュニアシングルス

鳴原、木村、佐藤…

1回戦敗退

女子ジュニアシングルス

菅野愛、藤本、飯田…

1回戦敗退

男子ダブルス

鳴原・佐藤、木村・齋藤…

1回戦敗退

女子ダブルス

菅野愛・飯田…

1回戦敗退

### 陸上競技部

▼令和7年度 福島県高校体育大会県北地区予選

令和7年5月9日（金）〜11日（日） 誠伝社WINDYスタジアム（信夫ヶ丘競技場）

女子

200 m 1位 大宮怜禾

400 m 1位 大宮怜禾

1500 m 1位 山田美桜

3000 m 1位 山田美桜

2000 m障害 1位 森 恋彩

4×400 m R 1位

三品 結・大宮怜禾・山田美桜・佐藤華音

▼令和7年度 福島県高校体育大会

令和7年5月23日（金）〜26日（月） いわき陸上競技場

東北大会出場権獲得

男子

齋藤周真 110 m H

伊藤大葵 800 m

女子

佐藤華音 400 m H・4×400 m R

三品 結・山田美桜・大宮怜禾・森香乃音・森 恋彩

4×400 m R 以上8名

男子

100 m 予選 齋藤周真

200 m 予選 佐藤暖希

800 m 準決勝 阿部聖哉

1500 m 5位 伊藤大葵

5000 m 予選 佐藤陸斗

110 m H 出場 森 彩隼

3位 齋藤周真

予選 齋藤海都

400 m H 準決勝 芳賀洸太

走高跳 予選 丹野灯葵

走幅跳 予選 紺野晴矢

4×100 m R 予選 齋藤秀磨

佐藤暖希・齋藤周真・島田遼平・安田啓人

4×400 m R 予選

島田遼平・芳賀洸太・佐藤陸斗・阿部聖哉

女子

200 m 7位 大宮怜禾

400 m 7位 大宮怜禾

800 m 準決勝 小野莉菜

1500 m 予選 森 恋彩

3000 m 8位 山田美桜

予選 森香乃音

走幅跳 予選 伊藤亜紗花

三段跳 予選 伊藤亜紗花

4×100 m R 予選

伊藤亜紗花・佐藤華音・三品 結・大宮怜禾

4×400 m R 4位

三品 結・大宮怜禾・山田美桜・佐藤華音

▼令和7年度 東北高等学校陸上競技大会

令和7年6月13日（金）〜16日（月） カクヒログループアスレチックスタジアム

男子

800 m 準決勝 伊藤大葵

110 m H 準決勝 齋藤周真

女子

400 m H 7位 佐藤華音

4×400 m R 準決勝

三品 結・大宮怜禾・山田美桜・佐藤華音

▼第80回福島県陸上競技選手権

大会兼第78回福島県総合スポーツ大会陸上競技大会  
北地区予選会  
令和7年6月20日(金)～22日(日)  
誠電社WINDYスタジアム(信夫ヶ丘競技場)

男子  
4×100m R 1位  
齋藤海都・安田啓人・齋藤周真・菅野凜人

女子  
800m 1位 山田美桜  
500m 1位 小野莉菜  
400m H 1位 大宮怜禾

▼第80回福島県陸上競技選手権大会兼第78回福島県総合スポーツ大会陸上競技大会  
令和7年7月10日(木)～13日(日)  
とうほう・みんなのスタジアム

男子  
100m 予選 安田啓人  
800m 予選 石川龍誠  
1500m 予選 伊藤大葵  
5000m 予選 伊藤大葵  
1500m 予選 伊藤大葵  
5000m 予選 伊藤大葵  
B 3000m 出場 古川貴琉  
110m J H 2位 齋藤周真  
予選 齋藤海都

4×100m R 予選  
齋藤海都・安田啓人・齋藤周真・菅野凜人  
4×400m R 予選  
本多瑛貴・伊藤大葵・齋藤秀磨・菅野凜人

女子  
1500m 予選 山田美桜  
5000m 11位 小野莉菜  
A 300m H 2位 佐藤華音  
400m H 5位 大宮怜禾

▼第65回福島県高等学校新人体育大会陸上競技  
令和7年9月5日(金)～8日(月)  
郡山ヒロセ開成山陸上競技場

男子  
100m 準決勝 齋藤周真  
準決勝 安田啓人  
予選 菅野凜人  
200m 準決勝 安田啓人  
予選 本多瑛貴  
400m 予選 本多瑛貴  
予選 菅野凜人  
800m B決1位 伊藤大葵  
予選 橋内結万  
1500m 予選 伊藤大葵  
5000m 出場 黒澤颯介  
110m H 5位 齋藤周真  
400m H 予選 齋藤海都

走高跳 予選 丹野灯葵  
7位 芳賀洸太  
走幅跳 予選 紺野晴矢  
予選 齋藤秀磨

4×100m R 予選  
菅野凜人・芳賀洸太・齋藤周真・安田啓人  
4×400m R 予選  
安田啓人・芳賀洸太・齋藤周真・伊藤大葵

女子  
800m B決4位 小野莉菜

1500m 予選 森香乃音  
3000m 出場 小野莉菜  
出場 森香乃音

▼第19回U18陸上競技大会  
令和7年10月17日(金)～19日(日)  
三重交通Gスポーツ伊勢陸上競技場(三重県伊勢市)

男子  
110m J H 予選 齋藤周真  
令和7年度 福島県高等学校駅伝競走大会  
令和7年10月23日(木) 猪苗代町特設コース  
男子11位 ※全24チーム  
(オープン4含)

森 彩隼・古川貴琉・森大  
隼・石川龍誠・橋内結万・黒澤颯介・伊藤大葵  
女子8位 ※全16チーム  
(オープン2含)

山田美桜・森香乃音・森恋  
彩・大宮怜禾・小野莉奈

バスケットボール部男子  
▼第71回福島県高等学校体育大会バスケットボール競技(6  
／1)  
1回戦 福島東97―62いわき光洋  
2回戦 福島東46―89日大東北

▼第78回福島県総合スポーツ大会バスケットボール競技(7  
／5／7／6)  
1回戦 福島東80―59昌平  
2回戦

福島東55―47会津北嶺  
3回戦 福島東52―98北芝電機  
▼第62回福島県高等学校バスケットボール選手権大会  
福島東61―71昌平

バスケットボール部女子  
▼第71回福島県高等学校体育大会バスケットボール競技(6  
／1)  
1回戦 福島東71―54相馬総合  
2回戦 福島東56―82磐城一

▼第78回福島県総合スポーツ大会バスケットボール競技(7  
／5)  
1回戦 福島東47―63いわき光洋  
第62回福島県高等学校バスケットボール選手権大会  
福島東57―104会津

バレーボール部男子  
▼第71回福島県高等学校体育大会バレーボール競技県大会  
1回戦 対会津 0―2  
(20―25、11―25)  
▼第78回福島県総合スポーツ大会バレーボール競技少年の部  
県大会  
1回戦 対田村 2―0  
(25―18、25―15)  
2回戦 対郡山北工業  
0―2 (7―25、20―25)

福島東2―0喜多方  
2回戦 福島東0―2郡山女大附  
▼第78回福島県総合スポーツ大会バレーボール競技少年の部  
県大会  
1回戦 福島東2―0葵  
2回戦 福島東0―2郡山女大附

▼第78回福島県総合スポーツ大会バレーボール競技少年の部  
県大会  
1回戦 福島東2―0葵  
2回戦 福島東0―2郡山女大附

テニス部  
▼第42回福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会  
U16男子ダブルス／1位  
人見竜聖・(他校生) ペア  
(東北大会出場)  
3位 菊地駿太・八島柊人ペア  
U18男子ダブルス／2位  
加藤柊羽・太田泉ペア  
(東北大会出場)  
3位 鳥貫夏成・黒津星斗ペア  
▼第42回福島県春季ジュニアシングルステニス選手権大会  
U16男子シングルス  
1位 人見竜聖  
2位 菊地駿太  
3位 八島柊人  
(以上東北大会出場)  
U18男子シングルス  
2位 鳥貫夏成



3位 加藤柊羽 (以上東北大会出場)	3位 加藤柊羽・太田泉ペア (全国大会・東北大会出場)	1回戦 1―6 東陵(宮城) 女子団体	1回線 1―6、0―6 (やすいそ庭球部)
6位 太田 泉	2位 菊地駿太・八島柊人ペア (東北大会出場)	1回戦 0―3 東陵(宮城) 女子個人戦シングルス	▼第59回福島県高等学校新人体育大会県北地区予選(8/30―9/1) インテックテニスガーデン
U18女子シングルス	ベスト8	田村優歩	男子団体/1位
3位 田村優歩 (東北大会出場)	島貫夏成・人見竜聖ペア	1回戦 0―6 仙台育英	男子個人戦シングルス
▼第71回福島県高等学校体育大会県北地区大会(5/7―9)	女子団体	▼第47回MAYAホールディングス東北ジュニアテニス選手権大会	18歳以下女子シングルス
インテックテニスガーデン	1回戦 2―1 いわき湯本	18歳以下男子シングルス	田村優歩
男子団体/1位	2回戦 2―0 福島成蹊	加藤柊羽	1回戦 2―8(八戸大二)
男子シングルス	準決勝 2―1 日大東北	1回戦 3―8 岩手	令和7年度全国高等学校総合体育大会(7/28―8/4)
1位 菊地駿太	決勝 0―2 磐城	島貫夏成	福山市竹ノ端運動公園庭球場・こざかなくんスポーツパークびんご
男子ダブルス/1位	2位 (東北大会出場)	1回戦 6―8 仙台二	男子団体
島貫夏成・人見竜聖ペア	3位 田村優歩 (東北大会出場)	加藤柊羽・太田 泉	1―2 海星学院(北海道)
女子団体/1位	女子個人ダブルス/3位	2―8 岩手	男子個人戦シングルス
女子シングルス	田村優歩・菅野結菜ペア	16歳以下男子シングルス	菊地駿太
1位 田村優歩	大会(6/19―22)	1回戦 8―5	1回戦 1―6 四日市工(三重)
女子ダブルス/1位	▼第66回東北高校テニス選手権大会(6/19―22)	(ウイニングショット)	男子個人戦ダブルス
田村優歩・菅野結菜ペア	男子・宮城県総合運動公園、女子・仙台市川内庭球場	2回戦 8―2	加藤柊羽・太田泉ペア
男子団体	男子団体	3回戦 6―3、6―3 (東陵)	1回戦 0―6 鳳凰(鹿児島)
2回戦 3―0 若松商業	1回戦 3―0 聖霊(青森)	準決勝 2―6、6―2、3―6 (FTTC橘Jr)	▼第29回県北地区ジュニアシングルス選手権大会(8/2―3) インテックテニスガーデン
3回戦 2―0 いわき湯本	準決勝 0―2 岩手(岩手)	ベスト4 (全国大会出場)	女子シングルス
準決勝 2―0 清陵情報	第3位	人見竜聖	1位 菅野結菜
決勝 2―0 磐城	男子個人戦シングルス	1回戦 8―0	▼ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権2025(8/25―9/5) 有明テニスの森公園テニスコート
1位	菊地駿太	2回戦 9―8 (4)	16歳以下男子シングルス
(全国大会・東北大会出場)	1回戦 6―2 岩手	(ウイニングショット)	菊地駿太
男子個人シングルス	2回戦 5―7 山形南	2回戦 6―7 (4)、1―6 (青森山田)	
2位 菊地駿太	人見竜聖	3回戦	
(全国大会・東北大会出場)	1回戦 5―7 鶴岡高専	6	
3位 人見竜聖 (東北大会出場)	男子個人戦ダブルス	ベスト8	
ベスト8	加藤柊羽・太田泉ペア	八島柊人	
加藤柊羽・島貫夏成	1回戦 5―7 青森山田		
男子個人ダブルス/1位	菊地駿太・八島柊人ペア		

会東北地区大会(10/24-26)  
秋田県立中央公園テニスコ  
ト

トーナメント1回戦

1-4 仙台第三

フイードインコンソレーシ  
ン

1回戦

3-2 弘前学院聖愛

フイードインコンソレーシ  
ン

2回戦 2-3 盛岡第四

### ハンドボール部

▼第76回福島県春季ハンドボ  
ール選手権大会

2回戦 福島東28-36 学法石川

▼第71回福島県高等学校体育大  
会ハンドボール競技

2回戦 福島東30-12 尚志

3回戦 福島東18-27 学法石川

▼第78回福島県総合スポー  
ツ大会ハンドボール競技

1回戦 福島東33-11 尚志

2回戦 福島東31-30 福島西

準決勝 福島東21-33 聖光学院

第3位

▼令和7年度福島県高等学校新  
人体育大会

2回戦 福島東33-25 郡山

準々決勝

福島東25-13 帝京安積

準決勝 福島東20-30 学法石川

シード順位決定戦

福島東24-26 福島

第3位

バドミントン部

▼第71回福島県高等学校体育大

会バドミントン競技

男子ダブルス出場

大内悠剛・木村洸太組

佐藤琉琥・八島大輝組

女子ダブルス出場

對馬花鈴・弓田眺夢

男子シングルス出場

大内悠剛、佐藤琉琥

### 柔道部

▼福島県高等学校体育大会 県

北予選

(男子) 個人戦 73 kg級

第1位 高橋 至

▼福島県高等学校体育大会

(男子) 個人戦 66 kg級

1回戦敗退 岡田輝瑠

73 kg級

ベスト8 高橋 至

▼福島県総合スポーツ大会 県

北予選

(少年男子) 次鋒(73 kg以下)

第1位 高橋 至

▼福島県総合スポーツ大会

(少年男子) 次鋒(73 kg以下)

3回戦敗退 高橋 至

1回戦敗退 岡田輝瑠

▼福島県高等学校新人体育大会

県北予選

(女子) 個人戦 57 kg級

第1位 佐藤陽鞠

▼福島県高等学校新人体育大会

(男子) 個人戦 66 kg級

2回戦敗退 岡田輝瑠

81 kg級

1回戦敗退 寺島璃恩

(女子) 個人戦

第3位 佐藤陽鞠

### 剣道部

▼第71回福島県高等学校体育大  
会剣道競技

(男子) 団体 ベスト16

(女子) 団体 1回戦敗退

個人 菊田 愛 1回戦敗退

▼第78回福島県総合スポー  
ツ大会剣道競技県北地区予選

(男子) 団体 優勝

▼第78回福島県総合スポー  
ツ大会剣道競技

(男子) 団体 第3位

(女子) 団体 1回戦敗退

▼令和7年度福島県高等学校新  
人体育大会剣道競技

(男子) 個人 渡邊心月

ベスト16

▼令和7年度福島県高等学校新  
人体育大会

(男子) 個人 渡邊心月

ベスト16

### 弓道部

▼第71回福島県高等学校体育大  
会 弓道競技

女子個人

石屋里苦 予選敗退

佐藤寧祐 準決勝敗退

男子個人

岸村凜音、横山陽紀

予選敗退

男子団体(宍戸幸樹、三浦大  
宜、加藤柚輝、菅野暖高、岸  
村凜音) 予選敗退

▼令和7年度福島県高等学校新  
人体育大会

女子個人

平澤明日菜 予選敗退

西戸光彩 準決勝敗退

男子個人

油井樹翔 準決勝敗退

菅野暖高 決勝進出

女子団体(石屋里苦、山田紗  
南、西戸光彩) 予選敗退

男子団体(油井樹翔、野村慧  
介、菅野暖高) 準決勝敗退

準決勝敗退

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

▼令和7年度 第71回福島県高  
等学校体育大会登山大会(朝  
日岳、三本槍岳、甲子山…5  
月28日(31日) 出場

山岳部

### 合唱部

▼令和7年度県北地区高等学校  
音楽祭 5月30日(金)【ふく  
しん夢の音楽堂】

▼第44回福島県高等学校総合文  
化祭(音楽部門)

▼第75回福島県高等学校音楽学  
習発表会 6月18日(水)【い  
わき芸術文化交流館アリオス】

▼第23回合唱部定期演奏会 8  
月8日(金)【ふくしん夢の音  
楽堂】

▼第79回福島県合唱コンクール  
8月30日(土)【いわき芸術文  
化交流館アリオス】 銅賞

▼第19回ダンス部発表会 7月  
30日(水)・31日(木) 福島テ  
ルサ【福島市】

▼第79回福島県総合美術展覧会  
(県展) 青少年奨励賞 福島  
県教育委員会教育長賞

3年 佐藤蒼悟

▼第20回西会津国際芸術村公募  
展2025 U18部門

3年 柴田夏希

書道部

▼第70回福島県たなばた展  
個人賞

大賞 齋藤ゆうあ

たなばた賞 佐藤百華

銀河賞

美術部

▼第79回福島県総合美術展覧会  
(県展) 青少年奨励賞 福島  
県教育委員会教育長賞

3年 佐藤蒼悟

▼第20回西会津国際芸術村公募  
展2025 U18部門

3年 柴田夏希

書道部

▼第70回福島県たなばた展  
個人賞

大賞 齋藤ゆうあ

たなばた賞 佐藤百華

銀河賞

美術部

▼第79回福島県総合美術展覧会  
(県展) 青少年奨励賞 福島  
県教育委員会教育長賞

3年 佐藤蒼悟

▼第20回西会津国際芸術村公募  
展2025 U18部門

3年 柴田夏希

書道部

▼第70回福島県たなばた展  
個人賞

大賞 齋藤ゆうあ

たなばた賞 佐藤百華

銀河賞

武田明香里・佐藤穂泉  
特選

佐藤歌音・神野智咲・齋藤桃香

団体賞 高等学校賞

▼第49回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文2025）

書道部門

奨励賞 武田明香里

▼四国大学第54回全国高校書道展

個人賞

副学長賞 齋藤ゆうあ

特選 佐藤歌音・佐藤百華  
準特選

武田明香里・佐藤穂泉

▼第22回安芸全国書展高校生大会

個人賞

入選 佐藤穂泉

▼第26回高校生国際美術展 書の部

個人賞

秀作賞 齋藤ゆうあ

佳作

佐藤歌音・佐藤百華・佐藤穂泉

▼第51回ふれあい書道展

個人賞 条幅の部

中国新聞社賞 齋藤ゆうあ

筆都大賞 佐藤穂泉

特選 佐藤歌音

奨励賞 武田明香里・佐藤百華・齋藤桃花

半紙の部

特選

武田明香里・佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

奨励賞

佐藤歌音・佐藤百華

▼第49回学芸大書道全国展

個人賞 半紙の部

硯心会会長賞 齋藤ゆうあ

硯心会理事長賞

武田明香里

特選 佐藤歌音・佐藤穂泉・佐藤百華・白坂咲良・齋藤桃花

半切の部

特選

武田明香里・佐藤穂泉・佐藤歌音・齋藤ゆうあ・佐藤百華

▼第41回高円宮杯日本武道館書道大展覽会

個人賞

日本武道館賞 武田明香里

大会奨励賞 齋藤ゆうあ

特選 佐藤歌音・佐藤穂泉

金賞 佐藤百華

銀賞 齋藤桃香

銅賞 白坂咲良

▼第30回全日本高校・大学生書道展―学生書道のグランプリ―

個人賞

準優秀

佐藤歌音・佐藤穂泉・佐藤百華

▼第49回福島県書道連盟展

個人賞 大賞 佐藤歌音

準大賞 齋藤ゆうあ

奨励賞

武田明香里・佐藤穂泉

▼第24回岐阜女子大学全国書道展

個人賞 半紙の部

準大賞 齋藤ゆうあ

優秀賞 武田明香里・佐藤穂泉・佐藤歌音

秀作賞

佐藤百華・神野智咲

努力賞

佐藤歌音・白坂咲良

条幅の部 福島県教育委員会教育長賞

武田明香里

優秀賞

佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

秀作賞 佐藤歌音

努力賞 佐藤百華

二八の部

特賞 武田明香里

優秀賞 佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

秀作賞 佐藤百華

努力賞 佐藤歌音

生作品展出品参加

▼第21回福島県刻字協会展高校生の祈り 和プロジェクト参加

9月20日福島市護国神社作品奉納

佐藤穂泉・齋藤ゆうあ・武田明香里・佐藤百華・白坂咲良

▼第59回福島県高等学校書道展

個人賞 半紙の部

大賞 齋藤ゆうあ

準大賞

武田明香里・佐藤穂泉

奨励賞 佐藤歌音・佐藤百華

特選 白坂咲良

条幅の部

準大賞 武田明香里・佐藤穂泉・佐藤歌音

奨励賞

佐藤百華・齋藤ゆうあ

▼第66回全国書道展

特選 白坂咲良

個人賞 半紙の部

推薦賞 齋藤ゆうあ

特選 武田明香里

金賞 佐藤穂泉・佐藤歌音

銀賞 佐藤百華・齋藤桃花

条幅の部

特選 武田明香里

金賞 佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

銀賞 佐藤百華・佐藤歌音

▼第34回国際高校生選抜書展 書の甲子園

個人賞 入選 佐藤歌音・佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

条幅の部

特別優秀賞 武田明香里

奨励賞

佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

▼第49回全国学生書写書道展

金賞 佐藤歌音

銀賞 佐藤百華

半紙の部

特別優秀賞 佐藤穂泉

奨励賞 武田明香里

金賞

佐藤百華・齋藤ゆうあ

銀賞 佐藤歌音

入選 白坂咲良・齋藤桃花

▼第44回福島県高等学校総合文化祭書道展

大賞 武田明香里

奨励賞 佐藤穂泉

特別賞 佐藤歌音

▼第75回全日本学生書道展

読売新聞社賞 武田明香里

旺文社賞 佐藤穂泉

秀作賞

佐藤百華・齋藤ゆうあ・佐藤歌音

英語部

▼プリティッシュヒルズ研修旅行 6月6日（金）～7日（土）



令和六年度

部活動を通して学んだこと  
教えられたこと

生徒会

本校生徒会執行部では、生徒から寄せられる様々な要望や意見を、評議員会（H R長の集まり）やアンケート、意見交換会を通じて話し合い、先生方と連携しながら、これまで校則の見直し、施設・設備の改善、学習環境の整備など様々な問題について話し合ってきました。また、東桜祭やスポーツ大会など、の生徒会行事の企画・運営をしたり、環境保全への取り組みとしてペットボトルキャップを回収し、ワクチンに替える活動もしています。

野  
球部

私達野球部は個人の技術の向上やチームの勝利を目指して日々練習に励んでいます。普段の練習では限られた練習時間ではあるものの様々な工夫をしながら週末に行われる練習試合で出てきた課題を潰しているように一生懸命練習しています。特に冬場などには肉体的にも精神的にも追いこまれるきつい練習を行うこともありますがこの練習が夏の大会での試合を戦い抜く力やもう一步踏み出す粘り強さを生むためチームメイト同士励まし合って頑張っています。

サッカー部

私たちサッカー部は部員43名で毎日の練習に取り組んでいます。県ベスト4以上、そして昨年に引き続き西部サッカー場でプレーすることを目標に一生懸命頑張っています。

## 卓球部

私達がこうしてサツカーができているのはこれまで東高サツカー部を築き上げてきた先輩方や、先生、保護者のみなさんのおかげです。これからも新しい東高サツカー部の歴史を作れるように頑張ります。

陸  
上部

力です。そのように練習を続け、以前行われた新人戦では団体は男女共に県大会、個人戦も何名か県大会に進むことができました。このような結果にすることができたのは、チームの絆が強く、本番でアドバイスし合いい、励まし合っているからだと思います。このような結果に満足せず、県大会や今後の大会でより良い結果が出せるように日々の練習を頑張っていきたいと思っています。（平田悠希）

**バスケットボール部**（男子）

私達男子バスケットボール部は二年生十一名、一年生十五名で活動しています。県ベスト四を目標に日々練習に励んでいます。

## 卓球部

私たち卓球部は、毎日決まったメニューを練習して上達できるように頑張っています。部員同士も学年関係なく仲が良く、互いに切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。卓球は今まで練習してきたことの積み重ねで結果に反映されやすい点や、最後まであきらめずに戦いぬく強い気持ちが生み出されるのが魅

陸  
上部

陸上競技部は心身ともに鍛えることができ、仲間と競争心を高めることができる部活動です。陸上競技部は日曜日以外の週六日活動しており、競技場で走る練習をする他、学校でウエイトトレーニングなどの筋力をつける練習を行っています。長年競技を行っている人や、高校から競技を始めた人など幅広い層で活動していて互い教え技術を高めあっています。この部活動の魅力は個人競技のため一人一人が仲間であると同時にライバルなので緊張感をもって練習を行うことができ、競争心を高めることができます。また結果を細かく分析できる競技なので、自分がどのくらい成長したのか

**バスケットボール部（男子）**

分かります。やりがいを感じることができそうです。

私達チームの目標は一人でも多く上位大会に出場することです。これからも応援よろしくお願ひします。

(齋藤周真)

## バスケットボール部(男子)

私達男子バスケットボール部は二年生十一名、一年生十五名で活動しています。県ベスト四を目標に日々練習に励んでいます。

練習では辛く大変なことも多いですが、試合で相手に勝利した時、バラバラだったものの歯車が噛み合った時など、嬉しく楽しい瞬間が多々あります。ささ

らに遠征を通し普段なかなかできない相手と試合をすることもあり、自分達の糧となるような経験をしています。

私達は「チーム」について考えることがとても多くあります。チームのためにはどういいうことなのか、チーム一丸とは、と皆で議論し試行錯誤をしながらチーム力の向上に努め、お互いを称え合えるチームにしたいです。

これから様々な事が起こると思いますが、先輩方が築きあげてきた伝統を受け継ぎ、歴史に新たな一ページを加えていきたいです。

生徒会の魅力は、我々生徒たちが坑内の様々な活動に携わることで、仲間との協力の大切さを学べたり、他の部活動では得られない企画力や交渉力を育てることができるところだと思っています。生徒会活動は一人でするものではなく、役員一人一人が責任感をもって活動することになりたつものだというのを自覚しながら、全員で協力して活動していきたいです。

また、私達は野球部OB・OGの方やブラスバンド部の方、保護者の方より日頃からたくさんのご支援をいただいております。支えて下さっても感謝しています。返して下さっている方に試合で勝つて恩返しできるように日々の練習を頑張つて取り組んでいきたいと思つてるのでこれからも応援をよろしく願ひします。

(宮崎瑛大)

〔梅宮佑青〕

〔東海林貫太郎〕

（平田悠希）

〔齋藤周真〕

いす。  
（大河龍空）

## バスケットボール部（女子）

私たち女子バスケットボール部は、岩倉先生、善明先生、粟村先生の御指導のもと、二年生五名、一年生七名で、県大会ベスト十六を目指して日々の練習に励んでいます。

私たちは、技術の向上だけでなく部活動を通して、礼儀や感謝など人として成長することにも力を入れています。また、一・二年生、学年関係なく仲が良く、目標に近づけるように、意見を交換し合える部活動です。そのため、部員間でコミュニケーションを取ることを大切にしていきます。

私たちが部活動をできているのは、保護者の方や先生方、OB、OGの方々の支えがあつてこそだということを忘れずに、目標である県大会ベスト十六に向かって、日々練習に励んでいきたいと思っています。（加藤純菜）

## バレーボール部（男子）

私達男子バレーボール部の魅力と特徴は、お互いのことを勉強やバレーボールでライバルとして意識しあっているということです。

学年を越えて互いを尊敬しているからこそ、ライバルとして高め合えるのだと思います。ですが部活が終われば皆で笑って飯を食べに行くような仲間でもあります。メリハリがきちんとしているのも魅力です。

そして男子バレーボール部の魅力は、全員が試合で勝つことに本気なので、その思いを皆で共有できる環境にあることです。互いを尊敬し信頼しているからこそできることですし、そのおかげで日々成長できていると思います。僕はこういったチームの中でキャプテンとして毎日バレーができることを何より幸せに感じています。このチームで良い結果をお世話になった方々に報告できるよう頑張ります。（石田智久）

## バレーボール部（女子）

私たち女子バレーボール部は毎日明るく楽しく、本気で練習に取り組んでいます。現在は顧問の先生と副顧問の先生に加え、外部コーチの方の指導の下、県大会ベスト8を目標に活動しています。女子バレーボール部は基本的な礼儀を大切にしている部活動だと私は思います。先生方や先輩方から教わった大きな声での挨拶、周りへの気遣い、

学校生活での態度を忘れず生活することを心がけています。また、学年関係なく交流が深くとても仲の良い部活動です。そのため言いたいことがあったらお互いに言いやすいような雰囲気づくりをすることができています。

東高の強みである粘りのバレーで常に笑顔で全力でプレイし見ている人が応援したいと思えるようなチームを目指しこれからも元気に活動していきたいです。（佐々木望愛）

## テニス部

私たちテニス部は毎日の部活動や大会を通して様々なことを学んできました。その中で特に大切だと感じたことは自分の課題を明確にするということです。試合などでミスをしたときどうしてミスしたのかどうすればよかったのかを考え、また同じような状況になったときに対応できるように練習を行っています。

また仲間とここはこうすると良いと互いに意見を出し合うことで新しい課題を見つけ、さらなる技術向上を目指しています。部長として部員をまとめたりすることは大変ではありますが、今後の活動にも役立つ良い

経験となりました。

部活動などを行う上で保護者や先生方の協力が必要不可欠です。支えてくださる方々への感謝を忘れずにこれからも頑張ります。（島貫夏成）

## ハンドボール部

私たちハンドボール部は、現在部員十九名で日々県優勝、上位大会進出という目標を達成するために活動しています。

現在のハンドボール部は、一回の練習毎に全員で士気を高め合い良い空気感、雰囲気で勝ちにいく練習ができているという長所があります。ですが、まだまだ短所や未完成な部分も多いため、その壁から逃げることなく一つ一つ乗り越えていきたいです。東高校ハンドボール部の先輩方から代々受け継がれてきた横断幕、「東魂」という言葉を胸に、周りへの感謝を忘れず過去の先輩方が残した数々の偉大な記録を越えていけるような良い結果を自分たちが残すことができるよう、これからも一日一日の練習を大切にし一戦必勝できるようなチームを目指していきます。これからも東高校ハンドボール部の応援をよろしくお願いします。（黒羽唯元）

## バドミントン部

我々、バドミントン部は四十五人で活動しています。

バドミントン部は四十五人で三コートという、正直、厳しい練習下の環境で活動しています。

そんなバドミントン部の良さは一人一人が多方面に優れていることです。統率することに長けている人もいれば、その場その場で適確なアイデアを出すことに長けた人もいます。人数は多いですが、指示もすぐに通るので、私が部長をやっていることとめることにに関して、苦と感じたことはありません。

そして、我々、バドミントン部の目標は団体戦で県大会に進むことです。もちろん、個人戦で勝ち進むことも大事ですが、人数が多いがため、全員がメンバーになることのできない団体戦で部の思いを背負って勝ち進むことに意味があると考えています。

今後とも、バドミントン部の応援をよろしく願います。（伊藤温人）

## 柔道部

私達福島東高校柔道部は、一年生初心者二名、二年生初心者一名経験者一名の計四名で活動

しています。東高柔道部はウェイトトレーニングにも力を入れており、月水木土の四日間柔道に取り組み、火金の二日間ウェイトトレーニングをしています。週末は会津や山形へ出稽古によくいきます。練習はとてもキツく辛いですが、ライバルや仲間がたくさんで青春って感じがして楽しいです。インターハイや新人戦が終わると東北大学で行われる青葉杯や筑波大学で行われる川村楨三杯などにも参加することができると、他の高校よりも全国の選手と競い合える機会が多くなり、より高いモチベーションをもつて一年間を過ごすことができます。部員が四人と少ない中ですが顧問の佐々木先生のご指導のもと、福島東高校柔道部として精力善用、自他共栄を胸に良い結果を出せるようがんばります。

(高橋 至)

## 剣道部

私が所属する剣道部は、現在は三人という少なさですが、日々稽古に励んでいます。三人なので、日々の練習内容はあまり濃くないですが少ないからこそ細かい部分まで練習することができています。そんな剣道部には特徴があります。一つは、

三人でやっているために出稽古が多くなり、他の高校との練習で様々な相手や先生と練習できることです。多種多様な相手と練習することでいろんな種類の剣道タイプを知ることができてそれを試合に生かすことができます。二つ目は、三人という少なさだからこそ、仲がいい所です。男子二人女子一人ですが、日々仲良く活動することができています。一年生がいらない寂しさもありますが、楽しく活動できています。

最後に、来年は一年生が入って男子も女子も再び団体戦に出れると信じてこれから頑張りたいです。

(荒川大知)

## 弓道部

弓道部は主に新人戦とインターハイの2つの大会での上位入賞に向けて日々の練習に取り組んでいます。

私の思う弓道部の魅力は楽しさです。日々、部活動に取り組み中で全体的に中らないときもあります。毎日同じ練習をしているつもりでも日によって射が変わりうまくいったり、いかなかったりを繰り返し波があります。安定せず辛いときもありますが私が部長として、また一部員として弓道を続けられている

のは中る楽しさと助けてくれる仲間の存在があるからです。思うように的中が出ないとき、仲間と一緒に原因を考え、自分の納得いくまで練習を手伝ってくれることでの繋がることも多くありました。その時の嬉しさや達成感が日々の刺激となり楽しく弓道に向き合うことができます。これからも楽しさと周りへの感謝の気持ちを忘れず部活動に励んでいきたいです。

(鈴木よつば)

## 山岳部

山岳部は登山を通じて、自然と向きあい、体力や精神力を鍛えバーティのメンバーで協力したり、山の自然を学びます。また、季節に合わせて登山計画を立てます。登山技術の習得のために、地図の読み方や気象の知識、天気図の作成などがあります。山に登る仲間と頂上に登った達成感や、山頂からの景色は何事にも代えがたい魅力があります。現在、東高の山岳部は少人数で活動しています。そのため、登山の準備などをするのは今の人数では大変です。ですが、人数が少ないからこそ一人ひとりの存在が大切であり、責任感をもって活動することができます。仲間と協力して挑戦で

きることが山岳部の魅力です。

(内田凌斗)

## 吹奏楽部

私たち吹奏楽部は、現在部員二十七名で毎日楽しく活動しています。東高校吹奏楽部は、明るい音色の「イーストサウンド」が特徴です。吹奏楽部の伝統として、今でもこの音色が受け継がれています。また、先輩・後輩みんな仲が良く、互いに切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。一人一人の音が重なり、一つの曲になっていく喜びや達成感は吹奏楽ならではの魅力だと思っています。今は、アンサンブルコンテストや定期演奏会に向けて練習、準備をしています。定期演奏会は私たちにとって、とても大切なものです。部員一丸となってよりよい演奏会になるようがんばります。定期演奏会で「イーストサウンド」を感じていただければ嬉しいです。ぜひ、お越し下さい。そして、OG・OBの先輩方、吹奏楽部のご支援・ご協力ありがとうございます。これからもよろしく願っています。

(菅野望葵)

## 合唱部

合唱部は、「東の声」を届けるため、数々のイベント、コンクールに参加しています。東高の合唱部はとても仲が良かったです。学年、性別問わず、仲が良かったため、合唱でもみんなの声がうまく重なり、バラバラにならず、一つの音楽を奏でることができました。その原動力は質の高い練習です。顧問の佐藤朋子先生による、一人一人への発声指導により、自分の改善点を早く、明確に理解することができました。顧問の先生がいなくても、部員みんなで、自発的に練習をすることができています。それほど歌が好きなのがたまたま集まる部活です。合唱をやったことがない人でも東高校の合唱部に入れば、合唱や歌うことがとても好きになるし、とても上手くなります。そんな環境を作り続けている魅力ある部活です。

(皆川久響)

## 美術部

私たち美術部は、篠木先生のご指導のもと、一年生から三年生まで合わせて十二名で活動しています。

主な活動内容は、福島県総合美術展覧会に向けた作品制作、



夏季には県北地区デッサン講習会や実技講習会への参加、福島県高校美術展に向けた制作です。そして、年度末には一年間の成果を発表するため美術部が主催する桜美展があります。その他にも、美術館や博物館などを巡る東京への研修旅行があります。自身の制作に活かせるものを見つけることのできる大変良い機会になるため、毎年部員が楽しみにしています。

また、三年に一度の東桜祭では学芸員、生徒会役員とともに美術部員がデザインしたミニユメントを制作し、好評いただきました。

東高美術部の魅力は、一人一人がのびのびと制作できる雰囲気だと思っています。表現したい世界観や制作するペースも違う中で、アイデアを出し合い、時に協力することで互いに成長することができています。

(高橋真唯)

## 写真部

私たち写真部は、現在一年生5名二年生8名三年生8名で活動しています。今年も一年生が入部してくれてうれしい限りです。今年度の活動内容は、メイン活動である月一回の写真の発表と文化祭での写真の展示です。今年は公開文化祭だったの

で、一般の方々にも展示した部員の写真を見ていただきました。先輩方、先生方は、お写真を見ていただけたでしょうか。

さて、毎年行われていた撮影技術講習会ですが、今年も行われませんでした。写真部で唯一遠征らしいのができる機会なのでみんな少し残念がっていました。また、今年は福島市の市議会だよりの表紙の写真に東高校写真部が担当になった月があり、三年生の一人が撮った写真が採用されました。写真の発表を通して、部員全員センスあふれる写真を撮っており、今年も素晴らしい部活動ができています。

(佐々木琉聖)

## 科学部

現在の科学部は二年生二人、一年生六人の計八人で活動しています。活動内容は電流のローレンツ力による効果、過冷却、紙飛行機の飛行距離実験、巨大シャボン玉実験をそれぞれ行っています。それ以外の行事では、地区生徒理科研究発表会に参加しました。また、文化祭では、人工いくら作り体験、トリックアート展示、紙飛行機作り体験の三つを用意していました。当日は、老若男女さまざまな人

が化学室に訪れて実験を体験してくれました。そして、後期は、ふくしまサイエンスフェスタ、研修旅行を予定しています。ふくしまサイエンスフェスタでも、人工いくら作り体験、紙飛行機作り体験を予定しています。今年には地区生徒理科研究発表会で発表することができなかったのですが、来年は発表できるよう頑張りたいです。

(鈴木陽斗)

## 演劇部

演劇部では、春の発表会とコンクールに向けて、日々活動をしています。普段の練習内容は柔軟と発声、滑舌練習を主にし、既成の脚本を用いて演技練習を行うこともあります。また、自分たちが作った脚本を用いての練習も行っています。思うように演技ができなかったり、どのように演技したらいいかわからなくなることもあります。顧問や他の部員と相談するなどしてより良い劇をできるよう尽力しています。

次に、演劇部の魅力についてですが、他者からの注目を浴びるということが挙げられます。注目というものは時に重圧となります。ですが、様々な人が自分を見ようとしている感覚は演

劇をしているから感じられたことだとことだと思っています。また、他者を演じるという経験をしているからか他者の気持ちを考えられる人は多いことも魅力です。

(梅津志龍)

## 書道部

私達書道部は、より良い作品づくりを目指しながら日々活動しています。

活動の中で私達は合評の時間を大事にしています。合評とは部員一人一人が制作した作品を見せ合い互いに意見を出し合い改善点を見つける活動です。自分の改善点が見つかるだけでなく、他の人の作品から墨の入れ方や作品構成など、様々なことを学ぶことができます。また、展覧会での作品鑑賞も行います。普段見ることのできない一般の方の作品からも多くの学びを得ることがができます。

学年の差もなく、互いに意見を交わしながら、和気あいあいとした雰囲気です。日々の部活動を通して様々な表現方法を身につけ、「今日は明日の歴史」となるよう、昨日の作品よりも上達することを心がけながら活動しています。

(佐藤穂泉)

## ダンス部

私たちダンス部「FED」は現在二年生が二十二人、一年生が二十一人の計四十三人で活動しています。さらに、今年で二十代目になります。二人の同好会から始まり、ここまで部活動として大きくなれたのは歴史を築いてきた先輩や顧問の先生、保護者の方や様々な講師の方々の支えがあつてこそだと思います。また、様々なイベント

にお呼びいただいて踊らせていただいております。発表の機会があることにとても感謝しています。これからもイベントへ向けて部員全員でお互いを高め、仲間も深めながら私たち二十代目らしいダンスを作り上げていこうと思います。さらに今の二年生は来年の発表会が最後の部活動となります。そこへ向けての準備を少しずつ進めていき最高の発表会にすることができるよう、全力で努めていきたいと思っています。ぜひ応援よろしくお願ひします。

(都築春翔)

## 英語部

英語部では、国際交流をテーマに活動を行っています。ALTの先生との会話や文化紹介を通して生きた英語を学びながら

異文化に対する理解を深めています。授業とは違った自然な英語表現に触れられるのが大きな魅力です。時々最近のニュースや文化などをテーマにディスカッションをすることもあります。また、海外の映画を見て実践的に英語力を高めて、まず第一に楽しむことを大切にしています。自分の意見を英語で伝える難しさを感じる一方で、仲間と意見を共有したり文化の違いを考えたりする楽しさも実感します。

こうした活動を通して、外国語をツールとして人とつながる喜びや相手に思いを伝える大切さを毎日学んでいます。今後も国際交流を楽しみながら、コミュニケーション力を高めていきたいなと思います。

(井上侑人)

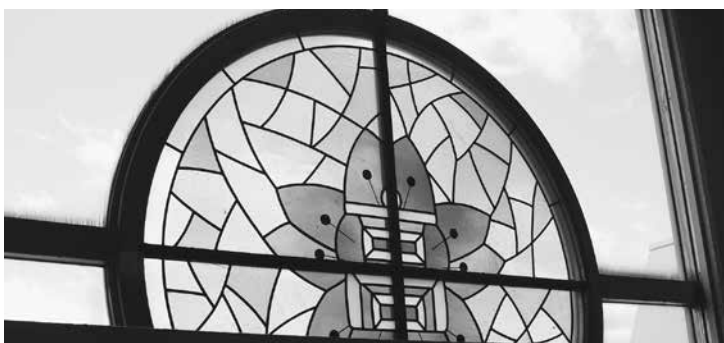
## 応援クラブ

私たちは主に応援を行っている野球部だけでなく、サッカー部やハンドボール部など他の部活の応援もすることができました。

今年度は三年生が引退したため慣れない中での応援でしたが、部員どうしでコミュニケーションをとりより良い応援をするための練習をすることができ

ました。二年生が二人と少なく、ドタバタしてしまうことがあったので本番の前にはしっかりと手順を確認してスムーズに進められるように心がけていきました。また、どうすれば音の響きが良くなるのかやどうすれば持続力を高められるかなどを追求しながら応援を頑張っていました。私たちの応援がしっかりとしていなければ試合の力になりません。少しでも選手のみなさんの力になれるように部員で協力して応援を頑張っています。

(木村凜音)



## 卒業生から学ば

行っていただきました。

### 講演タイトル

「ものづくりとまちづくり」  
—建築・建築以下の活動／デジタルファブリケーションに

昨年度より「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」採択校へ指定されました。それに伴い、令和9年度より教科「情報Ⅱ」を受講する生徒により興味関心を持たせること、受講をしない生徒もこれからのデジタル社会を生きるため、社会の中にも情報を活用されているか関心を持つてもらうことを目的として、先日本校OBの浅野紘太さん（20期生）に講演を



### 福島東高校の卒業生から学ぶ

自分をデザイン  
することの面白さ

アサノマサトニ 20期生



将来の夢は？という質問をしてみると、多くの学生は「〇〇になりたいです」と職業を答えることが多いかと思いますが、私自身も高校時代を思い返すと、「建築家になる」と宣言していました。確固たる職業への憧れはもうすっかり消えています。ですが、当時比べて現代の社会では職業という括りではない人々の選択、仕事の仕方、夢のカタチが存続していると思います。それはSNSや多種多様なメディアによって個人による発信が容易にできるようになり、収益を得る方法も会社に所属して給料をもらうだけではなく、勤務時間も個々人で選択できるようなスタイルが増えており、様々なライフスタイルを選択できるようになっているからです。私自身、こ

職業は「？」と尋ねられることはしばしばに悩むこともあります。建築家、デザイナー、アーティスト、大学講師、ラジオパーソナリティ、復興活動イベント企画、等々、その全てが私自身の活動です。「二兎を追う者は一兎をも得ず」ということわざがありますが、これからの社会では、十兎を追いつつ、ここで人生を豊かにしてくれる可能性もあります。または、「二足の草鞋を履く」という人生も可能となります。もちろん、そのような人生を選択するには様々な問題も解決していかなければならないでしょう。多くの挫折を経験することにもなると思います。ですが、そういった経験を積み重ねることで自分自身をデザインしていくことができればいいです。デザインと聞くと専門的なイメージを持たれるかもしれませんが、そのようなことはありません。理想をかなづけること、それがデザインです。自分自身が思い描く理想の自分をイメージすることで、五年後や十年後、二十年後の自分に期待すること、それが

将来の夢となりますし、そのときイメージするものはひとつの職業に固執せず、自分自身の可能性を信じて多くのことに挑戦すべきです。失敗は誰にでもあります。そして、失敗を繰り返すことで理想に近づきます。私は、千人十色、という言葉が好きです。東高生のみならずには、自分自身の色を沢山探してみたい、単色ではないカラフル（多色）な人生を楽しんでみたいと思います。

ついてー

浅野さんには、同窓会報13号（平成29年3月発行）でもご寄稿いただいております。



## 編集後記

福島東高校同窓会会報の第22号の発行にあたり、御多用の中同窓会関係者の皆様から、原稿や資料を御寄稿頂きまして厚く御礼申し上げます。

昨年度に同窓会役員の体制が刷新されたことに伴い、今年度は「同窓会名簿作成」「同窓会報の見直し」を行いました。特に、この同窓会報につきましては、昨年度よりお知らせしたとおり、印刷代・郵送代の高騰に伴い、冊子版のページ数の減少と会員の皆様へは縮小版をお送りすることとなりました。会員

の皆様の中には「紙での」会報を楽しみにされてた方もいらっしゃるかと存じますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

さて、本校では今年度の入学（46期生）より、1日7校時から6校時授業（授業時間週30時間）と大きな変化がありました。高校時代、7校時の授業に食らいつき、その後疲れ果てるまで必死で部活動に取り組んだ経験のある同窓生の皆様にとつて、「1日6校時」は想像のつかない変化かと思われます。

授業時間数が減少したことにより、どのような変化が起こるかは誰にも予想はできません

が、これまでとは生徒の学び方も変わっているため、この変化が生徒にとってプラスに働くような体制作りや環境づくりも必要となります。

その一つとして、2・3学年が7校時まで授業を行う中、1学年は6校時終了後から「自己探求の時間」という新たな取り組みを行い、1学年の担任団も日々試行錯誤をしながら指導にあたっております。実際にこの時間を過ごしている1年生の多くは、この時間に学習（課題や授業の予習復習）や探究活動に取り組むことができるため、7校時授業よりも余裕があつて良いという意見もあります。

今後、検証を重ねながら、様々な案や意見を出し合つて、この取り組みをアップデートしていくとは思いますが、アップデートをする中で、今後生徒の探究活動の一環として学校外の様々な企業や、官公庁、公的施設へ赴き、直接社会と繋がるような取り組みも出てくるかもしれません。もし本校の生徒が、同窓生の皆様のもとを訪れた際には、お力添えをいただければと存じます。

今年度は、本校のDX化に伴う「情報」に関する講演会、「職業に関する講演会（職業人に聞く）」といういくつかの講演会で私の同級生の力をお借りしま

した。急な依頼にも関わらず、快諾いただいたことが非常にありがたく、改めて同窓生の繋がり大切さを強く感じることができました。次年度以降も、福島県内外問わず、社会で活躍する同窓生の皆様にもぜひ本校へお越しいただき、後輩へ直接エールをいただければ場を設定したいと思っておりますので、ご協力いただけますと幸いです。

結びになりますが、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動に対し、御指導・御支援賜りますようお願い申し上げます。

（20期生 羽田 真幸）

## 令和7年度 転・退職出者

職名	氏名	教科	前勤務先
教諭	梅宮康弘	国語	退職・継続
教諭	佐藤直子	国語	退職・継続(再任用短時間)
教諭	阿部秀男	保健体育	退職
教頭	森敏行	英語	いわき市立草野中学校
教諭	齋藤克幸	保健体育	安達高等学校
再任用教諭	加藤聡	数学	退職・継続
再任用教諭	安齋雅高	芸術(美術)	退職(伊達高等学校)
再任用教諭	鬼満亮	数学	退職・継続
常勤講師	南條かおる	英語	退職
月手当講師	菅野和弘	理科	退職・継続
養護助教諭(月手)	平塚知世		退職・継続
時間講師	狩野剛	地歴・公民	退職
時間講師	安藤ゆずな	数学	退職
時間講師	佐藤智恵美	英語	退職
時間講師	富山和美	家庭	退職(福島商業、福島工業定時)
専門員	阿部千春		退職・継続
ボイラー・技士兼校務員	菅野嘉之		退職・継続
校務員	牧野弘		退職
業務員	菅野秀之		退職・継続
会計年度任用職員	神野藤磨		退職
PTA雇用職員(兼:校長協会雇用職員)	児玉紀子		退職・継続
スクールサポートスタッフ	坂本香織		退職・継続

## 令和7年度 転入者

職名	氏名	教科	前勤務先
教頭	横田潤	数学	西会津高等学校
教諭	齋藤純一	国語	船引高等学校
教頭	石田智宏	保健体育	川俣高等学校
教諭	橘内聡志	保健体育	安達高等学校
教諭	篠木美恵子	芸術(美術)	福島北高等学校
常勤講師	国分香	英語	安達高等学校
常勤講師	松井あい	英語	
時間講師	菅野雅喜	地歴・公民	
時間講師	吉田典子	数学	あさか開成高等学校
時間講師	齋藤嘉浩	英語	川俣高等学校
主査	西和子		
校務員	渡邊次郎		

## 令和7年度 教育実習生（同窓生のみ）

氏名	実習教科	期生
遠藤 滉己	保健体育	40期
角田 雄生	保健体育	40期